

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	174700831		
法人名	特定非営利活動法人 いけだケアセンター		
事業所名	グループホーム のどか		
所在地	中川郡池田町字旭町5丁目10番地の2 (電話) 01557 - 2 - 4282		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	平成19年10月25日

【情報提供票より】(平成19年9月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円		
その他の経費(月額)	・水道光熱費 10,000円 暖房費 3,000円(10月~3月)		
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月17日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護 1	2名	要介護 2	3名
要介護 3	2名	要介護 4	1名
要介護 5	1名	要支援 2	名
年齢	平均 85.6 歳	最低 79 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田町立病院 ・ 大熊歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームのどかは、「穏やかで、一緒に楽しく、普通の生活を保障する。」(法人理念)を掲げ、15年5月に開設され5年目を迎えた。管理者と職員は、法人理念とケア理念に沿ったサービスの提供に日々取り組んでいる。ホームはシックハウス対応型の平屋造りである。また、リビングを中心に居室、浴室、キッチン直線並びではなくどこからでもスタッフの目が届く設計になっている。和室の他に、勝手口につながる空きスペースがあり畳を敷いた仮が置かれ、くつろぎのコーナーになっている。ホームは常に開放されており、ご家族が訪問しやすい雰囲気である。また地域住民が気軽に訪問できる関係性が構築されている。ホームには「のどか菜園」、「のどか合唱団」があり、外で活動し出きるだけ声を出す機会を設けており、いつも楽しく笑顔の絶えないホームを目指し取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題であった、「場所間違いの防止策」では、入居者は暖簾を目印に問題もなく過ごされている。「退居の支援」では、主に入院が原因となる場合が多く、常に家族と医療機関とで話し合いが持たれ、納得のいく取り組みがなされ改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員が一体となり、自己評価の意義を理解し、日々の介護を振り返り、更に見直ししながら、質の確保・向上に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町の包括支援センターの開設を待ち、今年7月に第1回の運営推進会議が開催された。初回からホームの内情についての疑問・質問が活発にでた。2回目も9月に行われ、自己評価・外部評価についての説明や行事の案内がされた。参加者の関心事を議題に進められ、地域・入居者・家族・行政職員の代表が一体となり、質の改善に向けての活発な意見交換されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月入居者の家族宛に、お便りを書き入居者の暮らしぶりや健康状態など報告している。家族の来訪時、遠方の方には電話などで、家族の状況に合わせて報告がされている。苦情相談についても、重要事項説明書に内・外共に説明されており、常日頃から要望・意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。些細な意見にも耳を傾け、会議やミーティングで話し合い、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、回覧板でお便りを配布し認知症、認知症ケア、グループホームの実情などを理解して頂く機会にしている。また、文化祭やお祭り、コンサートなど地域の行事にも積極的に参加している。近隣の小学校の発表会や、運動会などの行事にも招待され交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「穏やかで、一緒に楽しく、普通の生活を保障する」を掲げており、開設当初より地域に根ざしたケアサービスの提供にも日々取り組んでいるが、改めて地域に密着したサービス事業所としての理念は盛り込まれてはいない。		開設当初より地域住民との交流を深め、利用者が地域で暮らし易い関係づくりを継続しているため、新しくパンフレットを作成する際に現状に沿った理念に作り変える事を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りにおいて意識高揚を目的とした理念唱和を行っており、管理者は定例会議や勉強会においても職員に理念を伝え共有し、日々のケアに反映される様取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、「のどかだより」を町内会各戸に配布し認知症、認知症ケア、グループホームの実情などを理解して頂く機会にしている。また、文化祭やお祭り、コンサートなど地域の行事にも積極的に参加し、近隣の小学校の発表会や運動会などの行事にも招待され参加しており交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員が一体となり、自己評価の意義を確認し、日々の介護を振り返り、更に見直しながら、質の確保・向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>町の包括支援センター開設を待ち、今年7月に第1回の運営推進会議が開催された。初回からグループホームの事細かな内情（入居の手続き方法、夜勤体制、防災訓練など等）についての疑問・質問が活発に出され、ホームへの関心が伺える。2回目も9月に行われ、自己評価・外部評価についての説明やホーム行事などの案内、皆さんの関心事を議題に進められ、地域・利用者・その家族・行政職員の代表が一体となり、質の改善に向けての活発な意見交換がなされている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に1度の在宅ケア推進担当者会議に参加し、グループホーム担当者との交流を深めている。又、町の行政担当者も通達書類などを届けながらの来訪が多く、サービスの質の向上に向けて相談しやすい状況にある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に発行されている「のどかだより」と共に、毎月利用者それぞれの家族宛に、個々にお便りを書き利用者の暮らしぶりや健康状態など報告している。家族への報告は、来訪時や遠方の場合には電話と状況に合わせたきめ細やかな報告がなされている。金銭管理についても、定期的に報告されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口が、重要事項説明書に内・外共に説明されている。家族の訪問は頻繁にあり、常日頃から要望・意見が言いやすい雰囲気作りにつとめている。毎月のお便りでも問いかけており、些細な意見にも耳を傾け会議やミーティングで話し合い、運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、利用者・家族への信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応することが重要と考えている。職員の交替に際しては、利用者へのダメージを最小限に留める為の最善の配慮がなされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は、職員に対し積極的に研修受講の機会を提供している。職員の希望や立場、経験などに応じた研修を選別し、経費もホーム負担が認められ受講しやすい環境にある。研修後は会議などで発表し、職員間での共有がなされている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者の個人的交流範囲の中で、帯広市内のグループホームとの交流が盛んに行われており、相互訪問し合い、合唱団の歌を披露したり懇談をしたりと、利用者を交えて他グループホームとのネットワークを持ちサービスの質の向上の為の意見交換や相互学習を行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望の申し出と共に、本人とその家族にはホームを見学して頂き、遊びにも来て頂いている。他の利用者や、職員及びサービスの場に馴染めるよう信頼関係をつくり、本格的な利用に移行されている。見学時には先輩利用者から温かい声かけがあり、心が和み安心感を持たれているようである。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、畑仕事や調理、片付け、掃除など普段から利用者に教えて頂く場面が多くお互いが協働しながら穏やかな生活がおくれるような、支えあう関係が築かれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で把握し、会話や表情などから本人の思いや真意を推し測り、それとなく確認するように努めている。4月からセンター方式の活用により、全職員間で共有されている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本人と家族の思いや意見を聞き反映した介護計画を作成している。介護計画は、センター方式を活用しアセスメントを含め全職員で意見交換やモニタリングを行い作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月～6ヶ月の定期見直し期間を設定しているが、利用者の状況変化や家族の要望に応じて随時見直しが行われている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者本人・家族の状況に応じて、通院や墓参・命日などの外出送迎支援を行っている。日々の暮らしの中で、必要な支援を柔軟に行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力医の他に、入居前からのかかりつけ医の医療も受けられるよう、家族と協力し通院介助を行っている。希望により訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療関係と関係を密に結んでいる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在、重度化・終末期のあり方について具体的な話し合いはされていない。</p>		<p>重度化した場合や終末期のありかたについて、出きるだけ早い段階で話し合い、関係者全体の方針の統一を図っていく事が望まれる。「終末期・重度化の生活支援・指針」などについて書面にて確認し、方針を共有することが望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを徹底するよう、勉強会やミーティングにおいて、職員の意識向上を図っている。更に、個人情報保護法の理解に努め秘密保持の徹底も図られている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームとしての基本的な流れはあるが、買い物や散歩に墓参や命日など、利用者一人ひとりの状況や思いに配慮しながら個別性のある支援が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表は事前に作らず、その日のメニューは利用者と相談しながら決めている。菜園の採りたて野菜を使い、利用者と職員と一緒に調理・盛り付け・片付けなどを行っている。ホーム特注の六角形の食卓テーブルを職員と利用者が囲み、楽しい食事ができる雰囲気を大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った入浴支援が行われているが、身体の清潔保持のため最低週2回の目安は立てている。入浴を好まない利用者には、言葉かけや対応に工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や、家族からの情報をもとに一人ひとりの力に合った役割をお願いし、感謝の言葉を伝えている。「のどか菜園」や「のどか合唱団」などがあり楽しみごととなっている。調査訪問時も、利用者の方がお茶やおやつのご接待、帰りには玄関での見送りと、役割を見つけ出し感謝されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように、毎日の散歩から始まりドライブ、温泉、コンサート、買い物、外食と利用者本人の希望に応じ支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行っていない。天気の良い日はドアも開け放し、自由に入出入りできる状態である。職員は常に利用者の状態把握に努め、さりげない見守りを行っている。外出を察知した時は、止めるのではなく、一緒に行動し安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による避難訓練・非難経路の確認・消火器の使い方など防火訓練を定期的に行っている。非常用備品も4~5人分は準備されている。		運営推進委員会が発足されて、防災訓練に地域住民の協力が得られる体制になりつつある。是非次回からの訓練では、地域住民参加のもとに実施し、地域の協力体制の基盤作りに取り組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況は毎日チェック表に記録し、全職員が情報を共有している。全利用者の栄養状態は良好で、のどか菜園の野菜を中心としたバランスの取れた美味しい食事作りの支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シックハウス対応型のホーム建築で、木彫造りが温かみを感じさせてくれる。特にリビングの六角形の大テーブルは、利用者同士の距離が縮まり、とても良い空間になっている。リビングとキッチンが対面式なので、茶碗を洗う音・ご飯の炊ける匂いなど五感や季節感を取り入れる工夫もされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や馴染みの品や昔懐かしい品など生活スタイルに合わせて用意され、カーペットやカーテンなどもきめ細やかな配慮がなされている。又、家族の写真や生活雑貨などを持参し、思い思いの居場所になっている。		

 は、重点項目。